

バラの庭園、ねむの木の庭

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年05月09日

期日：平成19年5月9日

場所：ねむの木の庭

ねむの木の庭の皇后様縁のバラ、プリンセスミチコが開花したのは、アーチの上で4月末、庭園では、5月4日頃でした。今見ごろを迎えています。

新聞等で報道された事もあり、この日は大勢の人が訪れ、バラの前で記念写真を撮ったり、バラのアップの写真を撮ったり、バラの話題に溢れた庭園でした。遠くから車で来た人、昼食を終えた五反田ビル街のOL等様々です。

昨年までとは違い、道路からフェンスのバラが目立ちます。バラのアーチが迎えてくれます。



庭園には、3箇所、バラのグループが作っており、訪れた人たちは思い思いの場所で楽しんでいました。



●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年05月09日

カルガモの雛誕生（小山巖島神社）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年06月01日

品川区の西端の住宅街にある小山巖島神社、弁天池で今年もカルガモの雛が誕生しました。

生まれたのは3羽、5月31日だそうです、この日は親鳥の羽に隠れて姿を見せず、6月1日に皆の前に姿を現しました。



雛たちは元気に泳ぎ回っていました。以前よりも木陰が多くなった弁天池は冷えるようで、池から上がって親鳥の羽の下に居る時間が長かったようです。

今朝もにわか雨があり、晴れた午後からは次々と噂を聞いた人達が可愛い雛の姿を観に集まってきました。



3羽が元気に巣立ってくれるのを祈りたいと思います。

●撮影日 平成19年6月1日

●内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年06月01日

ねむの木開花

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年06月23日

6月13日朝、東五反田の皇后様ゆかりのねむの木の庭で、早くもねむの木が開花していました。花数は多く、木の上から下まで一斉に開花です。緑の葉の絨毯に、ピンクと白でできたふわふわの和菓子に乗っかっているようです。昨日、日没の頃開花したことになります。



ねむの木の開花は、本来、中部日本では6月末から7月初め、半夏生（ハンゲシヨウ）の開花と同じように、梅雨明け間近を予告する花です。しかし近年では、一昨年が6月末、昨年は6月19日頃と早くなっています。

今年は6月4日に、多数の蕾が大きく膨らんでいるのを確認しました。その後、気温が上がるといよりは、湿っぽい梅雨のような気候で週末は雨が続いた後、6月12日は真夏の暑さとなりました。ねむの木は、梅雨明けを感じたのかもかもしれません。

撮影日 平成19年6月13日

内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年06月23日

都会のツバメ～子育て風景～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月02日

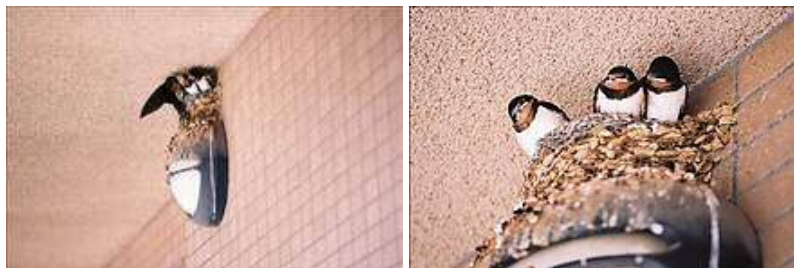
都会のツバメ～子育て風景～

期日：平成19年6月20日

東五反田のビルのひさしの下に、ツバメの巣がありました。

3羽の雛が、親を待っています。

しばらくすると、山の手方向から、黒い小柄な鳥が、さっと雛鳥に近寄り、あっという間に飛び去っていきました。餌を与えている瞬間も、やっとカメラに収めました。



餌を貰えなかった雛は大きく口を開けています。



餌を貰った雛は満足したのか、巣の縁で時折羽ばたいていました。

通りがかりの近所の人たちは、「毎年此処に巣を作っていますよ」「あ、産まれてた、今年は3羽なんだ」「照明の上が巣、だから、明かりは点けられないんです」等、皆さんお馴染みでした。

●環境記者 内田 雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月02日

ジャコウアゲハの産卵!

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月04日

期日：平成19年6月20日(水)

場所：勝島運河

6/20(水)勝島運河のコスモス畑に、東大井児童センターの子ども3名、大人2名とセンターの職員の方1名でコスモスの植えに行きました。



・コスモスの植え

その後、「ジャコウアゲハの幼虫を探しに行ってみよう!」と土手を立会川方面にずっと行って、見つけました。

“どこかにとまったら写真が撮れるなあ...”と思っていたらウマノズクサにとまり、なんと!産卵を始めました!



・産卵シーン



・ジャコウアゲハの卵

1mm位の赤くてカワイイ卵でした。
蝶の産卵は初めて見たので感動でした～！

- 吉仲理恵（記者NO.060105）
- 撮影日 平成19年6月20日(水)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月04日

ちょっと変わった朝顔の報告

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月07日

ここ数年、品川区内のあちこちで風変わりな朝顔を見かけるようになりました。ツルが威勢良く伸び、青紫の花が数多く咲き、午後もしぼむことなく赤味を帯びて咲き続けます。

紀伊半島、四国、九州以南の暖地で自生する野朝顔（ノアサガオ）です。さまざまな園芸品種もできており、琉球朝顔、青朝顔、オーシャンブルー、クリスタルブルーなどと呼ばれています。

種ができず、根やツルで繁殖します。私も3年前からベランダで栽培、楽しんでいきます。

品川では、一昨年冬のように寒さが厳しいと枯死することが多く、我が家では3株のうち2株が枯れ、1株が生き延びました。昨冬は鉢を日当たりの良い居間に入れたところ、真冬でも次々と咲きました。



真冬でも自宅居間で咲き続けた野朝顔（2月18日撮影）

今年の春にベランダに出し、いまツルを伸ばしツボミができてきたところです。間もなく咲き始めますが、すでに伊藤学園近くの家ではたくさん咲いています。



伊藤学園近くの家（7月1日午前11時撮影）

朝は青色ですが、午後になると赤味を帯び、夕方にしぼみます。

●環境記者 杉山邦夫（記者NO.070101）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月07日

『命のあさがお大作戦』

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月09日

『命のあさがお大作戦』

7月5日、梅雨の晴れ間の西大井駅で、杜松小学校1年生の子どもたちが、自分たちで育てた朝顔の花苗を配り、街中を花でいっぱいしましょうと呼びかけました。



杜松小学校では、街中が花いっぱいになってほしいという願いで、「命のあさがお大作戦」と題して、5月から1年生が朝顔の種を蒔き、朝顔を通して、命の大切さ、すばらしさを学びながら、朝顔を育ててきたそうです。

花苗は一つ一つ、使用済みの牛乳パックの鉢に詰め替えてありました。



午前10時、「街中を花でいっぱいにしましょう」「朝顔をどうぞ！」と路行く人たちに呼びかけながら、朝顔の苗を配り始めました。

花苗と一緒に、子どもたちが書いた「ぼくたちの(わたしたちの)そだてたあさがおをだいにそだててください。まちをはなでいっぱいにしてください。」「はながさいたらおしえてください」というメッセージも渡されました。



通勤時間帯から外れていますが、西大井駅はJRの乗降客やバスを利用する人等、路行く人が絶えません。電車やバスに乗る人は申し訳なさそうに断る人もいましたが、下りてきた人たち、通行の人たちは子どもたちの花苗をありがたく受取っていました。

駅前には、「街中を花でいっぱいにしましょう」「朝顔をどうぞ！」という子どもたちの掛け声が響き渡っていました。

10時半、朝顔の花苗配布終了、皆で記念撮影。子どもたちの願い「街中を花で

いっぱいにしましょう」のスタートです。



●撮影日 7月5日

●場所 西大井駅前

●内田 雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月09日

ガラスの破片のシェードランプ

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月13日

海岸に落ちているもの・・・というと、みなさん何を思い浮かべますか？貝殻や海藻の他に、海岸にはゴミもたくさん落ちています。海岸に落ちているゴミには、ガラスの破片も混ざっています。このガラスは、海や海岸に捨てられたビンが割れたもので、波にさらわれたりなどして海岸に散らばっています。裸足で歩くことの多い海岸では特に危険な物です。

環境記者の中西義治さんは、そんな海岸のガラスの破片を拾い集めて、こんなに素敵なランプを作ってくださいました！



波と砂の摩擦でガラスが擦りガラスのようになっていて、手に触れても危険はありません。

ランプ自体にもエコな工夫がなされています。

下の受け皿（実は使わなくなった灰皿！）に、水と使用済み天ぷら油を注いで、その上に、市販の着火用糸を浮かべると立派なランプになります。



ニオイも少なく、ガラスから透けてチラチラと燃える炎の光が何ともロマンチック。



この大きさのシェードランプをひとつ作るのに、一ヶ月は毎日砂浜を歩いてガラスを拾う必要があるとのこと。でも、旅先で、家族みんなで拾えば、手のひらサイズのものぐらいなら作れるかもしれません。この夏の思い出にいかがですか。

●撮影日 6月30日

●環境記者 中西義治 (NO.060108)

カテゴリ : 平成19年度

投稿日 : 2007年07月13日

「宴のあと」のひそやかな善意

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月24日

2日間にわたり、にぎやかに盆踊りなどの品川納涼祭が行われた西大井広場公園では、「宴のあと」の23日早朝、散乱したゴミを茶髪のサッカー青年1人とお年寄り2人の3人が黙々と拾い集めていました。



納涼祭で散らかったゴミを拾う茶髪サッカー青年ら3人（写真中央の台の少し左、左上すみ、左下すみ。7月23日午前5時45分ごろ18階ベランダから撮影）

サッカー青年は大きなゴミ袋を持参する用意周到さ。30分ほどできれいになり、青年は気持ちよさそうにドリブルなどを練習。

やがて午前6時半からいつものようにラジオ体操が始まりました。この朝はまだチョウチンが張られたままでした。ゴミ拾いの3人に感謝。ゴミ拾い中の写真（上）と、きれいになった公園で始まったラジオ体操の写真（下）をお送りします。



3人のお陰できれいになった西大井広場公園で始まったラジオ体操（7月23日午前6時35分ごろ撮影）

●記事提供 杉山邦夫（記者No.070101）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月24日

都会の中のぶどう棚

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月26日

南品川で、見事なぶどう棚を見つけました。ふっくらとした緑のぶどうが、たわわにぶらさがっています。こんな都会にでも、目を凝らしてみると小さな自然があることに気づきます。



下は同じく南品川で撮影したトケイソウ。実はパッションフルーツとして食べることができます。



●撮影日 7月10日（火）

●安藤 宗子（記者NO. 070204）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月26日

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年08月02日

品川区の海にもこんな大きなカニがいました。



2007年7月1日撮影

足まで入れると30cmもある大きなトゲノコギリガザミです。



手のひらとツメを比べて

写真は、京浜運河に、死んで砂浜に打ち上がったカニです。大きさは足まで入れると30cmもあります。大人の手の平と比べると、こんなに大きなハサミを持っています。

このカニ、トゲノコギリガザミとって、普通は浜名湖以南に棲んでいるカニですが、東京湾奥で見つかるのは珍しいと思います。運河で見つけたのは、今回を含めて3回目となります。最初見たのは、6,7年前ですが、運河の緑道公園の上から生きているのを見て大きいカニがいるとびっくりしました。その後、中央公園で死んで打上がった個体が一つと、現在まで3回程しか見ていない東京湾では大変珍しいカニです。

今、運河の水は少しずつきれいになって、たくさんの海の生き物が戻って来つつあります。

京浜運河の中だけでも現在まで94種類もの貝が見つかっています。また、運河の中には外国からの生き物もいて、世界中から来ているようです。大西洋の貝、地中海からのカニ、北アメリカ・東南アジア・ニュージーランド等からの生き物も運河の中にはたくさん棲んでいます。

これらの生き物も品川区の住民?になった様です。

■記事提供 青野 良平 (環境記者NO.070103)

※30年にわたって、京浜運河の貝を調査してきた 青野良平さんのHPはこちら
(リンク→<http://members12.tsukaeru.net/aono/>)
「運河内での貝の出現種類定着の記録」「貝から見た運河の環境」など、盛りだく
さんの内容です。

カテゴリ: 平成19年度

投稿日: 2007年08月02日

南からウスバキトンボが飛来

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年08月02日

南からウスバキ（薄羽黄）トンボ十数匹が、今年も7月31日に横須賀線西大井駅前
前のマンション周辺に飛来しました。



ほぼ毎年夏に群れでやって来て、数日間飛び回り、北へ移動して行きます。黄色で、空中を長時間飛び続けるのが特徴です。産卵から羽化まで1ヵ月から1ヵ月半と速く、池などでスピード繁殖を繰り返しながら南から日本列島を移動、北海道までたどりつきます。しかし越冬できず死滅、また翌年、同じように繁殖しながら北上します。

専門的な分類ではアカトンボはアキアカネなどアカネ属のトンボを指し、ウスバキトンボ（ウスバキトンボ属）や真紅のショウジョウトンボ（ショウジョウトンボ属）は違うのだそうです。でも「赤い色のトンボ」という広い意味ではアカトンボの仲間といえ、研究者による全国一斉赤トンボ調査ではウスバキトンボも調査対象になっています。



旧盆のころ飛来することが多く、盆トンボ、精霊（ショウリョウ）トンボなどと言われます。

このトンボを見ると、盛夏到来を実感するとともに秋の気配を感じます。

- 写真は、西大井駅前のマンション周辺を飛び回るウスバキトンボ（7月31日午後1時過ぎ18階ベランダから撮影）2枚共に
 - 記事提供 杉山邦夫（記者No.070101）
-

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年08月02日

保水性舗装を祝う打ち水～平和坂商店街～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年08月07日

品川区の商店街では、今年も打ち水大作戦として、7月28日午後2時から一斉に打ち水が行われました。



平和坂商店会では約400メートルの保水性舗装が完成し、記念の打ち水を行いました。

ひしゃくやジョウロを使いました。ジョウロに水を追加してもらった子、道端の鉢植えにも打ち水。「道路だけでは可愛そう」そんな風に思ったのかもしれません。



使った水は、雨水をタンクに溜めたものです。商店会のあちこちに、雨水の貯水タンクを設置してあります。



この日の気温は32度、平和坂での記録は更に高く、日向では35度、打ち水後33度まで下がりました。



今回は保水性舗装の完成記念として、風鈴や団扇、かき氷も無料配布、祝い太鼓も披露されました。

10分ほどで終わったうち水、30分経っても、道路は湿っていました。

- 撮影日 平成19年7月28日
- 内田雅弘（記者 NO. 060104）

カテゴリ: 平成19年度

投稿日: 2007年08月07日

セミの鳴き声にも季節感

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年08月20日

気象庁の発表では、今年、8月1日（水）が関東地方の梅雨明けでした。例年と比べて、12日遅いそうです。曇り空は多かったものの雨量は多くなく、あまりジメジメ感はない梅雨だったように思います。その後は、暑い日が続いています。

本日（8月15日）の東京の天気予報は、最低気温28℃、最高気温35℃です。ところで、夏といえばセミ。今年のセミの鳴き声はいつ頃から聞けたのでしょうか。振り返ってみたいと思います。

東京23区では、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシといったところが、一般的に鳴き声を聞けるセミの種類といえるでしょう。私は、職場が赤坂見附、自宅が品川区豊町ということから、赤坂見附界限と豊町界限で観察した、ささやかな情報をお伝えしたいと思います。一番早く聞けるのがニイニイゼミですが、6月28日に鳴き声を聞くことができました。



ニイニイゼミ

場所は、赤坂東宮御所・四谷上智大学グラウンドの周辺です。同じ場所で、7月17日にはアブラゼミ、ミンミンゼミの鳴き声を聞きました。

また、同じ場所で、8月7日にはツクツクボウシの鳴き声が聞けました。

翻って、品川区の戸越公園・国文学研究資料館界限へ8月13日に行ってみました。アブラゼミとミンミンゼミの大合唱のなか、ツクツクボウシの鳴き声を幾つか聞くことができました。



アブラゼミ

ミンミンゼミ

その日は、ツクツクボウシの鳴き声が昼間ではなく、夕方5時半頃になって鳴き出しました。また、鳴き声は聞けませんでした。ヒグラシ（メス）の姿を戸越公園で見つけました。

例年、ニイニゼミが鳴くのは7月に入ってからと聞いていたので、今年は例年より早いと思います。50年位前は、ニイニゼミは東京で多かったのですが、近年はめっきり減ってしまいました。それと反対に、ミンミンゼミが、繁殖してきています。

去年はクマゼミの鳴き声を聞き、クマゼミの生息域が北上してきていることを実感しましたが、今年はまだ聞いていません。



ツクツクボウシ

ツクツクボウシの鳴き声を聞くのも例年より早いようです。ツクツクボウシが鳴くと夏休みが終わるとというのが子供の頃からの印象です。言葉を変えると、ツクツクボウシの鳴き声は“小さな秋”を感じさせるものでもありました。もしかすると、今年秋の訪れは早いのかもかもしれません。

皆さんも、身近な小さな秋を見つけてみませんか！

●布川憲満(記者NO. 060107)

●写真出典 昆虫エクスペローラー <http://www.insects.jp/>

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年08月20日

環境問題に挑むまちづくり事業

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月15日

恒例のまちづくり事業展が7日から開かれ、しながわ中央公園では、アトラクション、模擬店等が行われていました。まちづくり事業PRの様子を防災センターで見学しました。

各企業・団体のパネル展示の中で環境問題に取り組んだものを紹介します。



水質浄化について、目黒川、立会川に関するもので、立会川については6月から行われている浄化実験の様子が展示されていました。



天王洲・勝島運河コーナーでは、勝島運河倶楽部のボート遊び、蝶の食草園作り、救出作戦等の様子が展示されていました。



涼しさ回復プロジェクト事業では、遮熱性塗料のアピールです。試験片を電球で暖めながら、効果を示していました。



電力不足で注目を浴びている太陽光発電、ソーラーパネルの展示もありました。住宅用のものがかなり開発されています。太陽光の利用は研究されていますが、太陽熱については、あまり聞きません。今は見ませんが、数十年昔、水道の水を屋根上のタンクに揚げて太陽熱で暖めて、家庭用風呂に使用するということがありましたが、小型ポンプが発達していない時代、水を上げるにも水道の圧力に頼るだけ、ホースも痛み、見られなくなってしまいました。朗報として、新聞によれば、最近では、太陽熱温水器と空気を暖めて屋根から床下に送り込む床暖房と組み合わせたシステムも開発されているそうです。太陽光発電に対する補助金もあるそうですが、普及するには費用が問題のようです。



涼のみち・電線地中化事業の展示もあります。北品川、戸越銀座地区で予定されています。東京電力、東京ガス、水道局と一体となった共同溝です。



舗装道路に関するヒートアイランド対策工法の展示も試験片を暖めながらアピールしていました。平和坂商店会の保水性舗装、大井町駅前の遮熱性舗装等です。舗装に関しては、雨水を大地にまで吸い込ませ、また、蒸発させる舗装が研究されていると、新聞等で見たことがあります。大地と同じ効果があれば最も良い方法だと思います。



- 撮影日 平成19年9月8日
- 内田雅弘（記者 NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月15日

エコぶたちょきんばこ

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月15日



ペットボトルに息子の古着をはりつけ、貯金箱をつくりました。

名付けて「エコぶたちょきんばこ」。

耳も鼻も手足も、ペットボトルの蓋です

実は、尻尾もペットボトルを上下に切断した際の切れ端なんですよ。

なにより、この名付けから息子がエコを理解しはじめたことがわかったことが嬉しいです！

●記事提供 武田ひろみ（記者NO.060109）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月15日

ど根性日々草

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月15日



夏の猛暑にも耐え、アスファルトの隙間から芽を出し、見事開花した日々草。見つけれたら、不可能と思われたあなたの願いも見事開花するかも。ヒントは桜新道に。

- 撮影日 平成19年7月27日
 - 記事提供 武田ひろみ（記者NO.060109）
-

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月15日

敬老の日のお祝いに

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月19日

平塚二町目では、町会員で75歳以上の高齢者230名に花の鉢をお届けいたしました。

一つひとつ手渡しです。



どうぞいつまでもお元気にお過ごしください。

●記事提供 志賀 勝 (環境記者No.060110)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月19日

彼岸花を訪ねて

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月29日

9月になっても30℃以上の真夏日が続き、彼岸間近になってようやく9月初めの気温になりました。彼岸花は地下茎の球根で、名前の通り彼岸の頃に咲き、見頃になる花で、地上の気温の影響は少ないと思われましたが、開花が遅れていました。品川の主な所を廻ってみました。赤色の彼岸花は開花し始めた頃で、赤彼岸花より先に咲く白彼岸花があちこちで見られました。

旧東海道沿い



品海公園

公園中央では昨年と同じアジサイの株の



鮫洲公園

公園中央の花壇で今年も開花していま

した。

中に白彼岸花がありました。更に、八ツ山
通り側でも白彼岸花が咲き揃っていました。

立会道路～小山



月見橋～大井町

ボランティア花壇が通行の人々を楽しま
内に



金山地藏堂

三谷八幡神社の隣にあり、狭い境
咲き誇って

いました。

付近から大井町にかけて咲いています。

戸越公園・しながわ中央公園



戸越公園



しながわ中央公園

戸越公園の工事も終わり、池の周りの遊歩道も再開しました。赤い彼岸花は池の向こうに咲き誇っています。

運動場周回コースでは、白彼岸花が足元に咲きました。

如来寺



如来寺

山門、入口付近に数多く咲いていました。彼岸花が迎えてくれるといった感じです。

彼岸花を見ながら進んでいくと、本堂前に出ます。

ねむの木の庭・池田山公園



ねむの木の庭

庭園は猛暑疲れと言った感じです。庭園の奥、シュウメイギクの向こうにやっとフジバカマが咲き始めました。



池田山公園

東屋の前ではザクロの実がかなり赤味を増してきました。

東屋をちょっと下ったところでは、彼岸花の一種である黄色のショウキランが見え隠れしています。

旗の台



旗の台

今回の場所は青空の下に輝く彼岸花が見られる場所です。上向きに見るので、晴れていれば青空の下の彼岸花を楽しむことができます。

ゼームス坂通り



ゼームス坂通り

立会道路、中延ではまだ彼岸花が蕾ですが、エンジュが実を付けていました。夕日に輝いていました。エンジュが実を付けるとその部分が明るくなります。日没30分ほど前ですが、エンジュの並木道も新芽が輝くような感じです。

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月29日

第4回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2007年10月07日

平成19年10月4日に第4回環境記者情報交換会が行われました。

10名の環境記者の方にお集まりいただき、品川の環境についての熱い討論が繰りひろげられました。



まず初めに、環境記者の皆さんの自己紹介と近状報告です。

様々な立場の方がいらっしゃいますが、まずは自分ができることから環境への取り組みをしようと、皆さん励んでいるようです。屋上菜園をされている方、長年京浜運河の観察をされている方、町会での取り組みを通してリサイクル活動に励んでいる方、長年街角の自然を写真に記録し温暖化を訴えている方、皆さん熱心な方ばかりです。



次に、特別顧問の佐山吉孝氏から「ちょっとエコな視点で見た、私の好きなしながわ」と題して講演をしていただきました。前回の品川用水の面影を巡るスライド散歩が好評だったので、今回も水をテーマにしたお話をお願いしました。品川区を流れる二つの川「目黒川」「立会川」を、実際に佐山さんが撮り下ろしてくださったスライドで辿ります。



浸水・汚水への行政の様々な取り組み、市井の人々の水と共に生きてきた歴史について、たくさんのスライドを用いて解説があり、参加者からは時には笑いが、時には感嘆の声が上がっていました。

「目黒川は散歩コースなんです。楽しかったです。」等、たくさんのお言葉を残して、皆さん帰路につかれました。これからも、レポートをお待ちしています。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2007年10月07日

品川区の京浜運河はこんなにきれいになっています

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月10日

●品川区の京浜運河はこんなにきれいになっています

(貝の棲息状況から見た京浜運河の変遷)

1975年、運河に棲む貝はたった7種類の貝だけでしたが、1986年頃から色々の貝が増えだしました。

1990年には17種に、2000年には61種に、2007年9月現在で94種を記録しました。

又、運河に定着した種類も7種から24種に増えました。

中には、WWF基準の希少種、それ以上の珍しい貝も見つかっています。

貝は殆ど移動する能力は有りませんから、そこで生活している事になります、水がきれいにならないと棲む事が出来ない貝もたくさんいます。

移入種の方も1986年には東南アジアからミドリイガイが京浜運河に棲みつきました、観察を開始してからの初めての本格的な移入種でした、その後ウスカラシオツガイ、シマメノウフネガイが運河に棲み付き、1999年からはホンビノスガイと言う大西洋に棲む貝が入って来ています。いま運河では貝としては外国からの移入種は7種類を数えています。

その他にも、地中海からはチチュウカイミドリガニを始め、フジツボの仲間、ホヤの仲間等たくさんの移入種がヨーロッパ、アメリカ、東南アジア、オーストラリア、ニュージーランド等から来ています。

1996年には、前年から目黒川に流すようになった下水処理場からの処理水の放流で京浜運河は一段と水質が良くなり、汽水域に棲める貝が多く定着を開始しました。しかし一方では1999年、2000年と運河の中のアサリが殆ど絶滅状態になりました、大雨による汚れた水の流れ込みと淡水化が原因で、この時は三番瀬も同じ状態になりました。

2000年には立会川に流した東京駅地下水で色々なカニの種類が見られる様になり、一部は定着しました。

2002年には、東京湾奥へ外洋水が強く流れ込み、砂浜の砂が多量に流される事件が有りましたが、その後又一段ときれいになって、今、東京湾外湾からの色々の生き物が見られる様になりました。

少しずつ確実に、運河だけでなく東京湾奥はきれいになりつつ有るのが見えますが、今はまだ昔棲んでいた貝が今は戻りつつあるのかなと感じています。

この記事を書いている2007年10月現在は8月末の大雨による酸欠、続いて台風、更に大雨とアサリは殆ど死んでしまいました。ハゼも元気が有りません、汽水域は非常に環境の厳しい所で塩分の低下、大雨での悪い水の流れ込み等と直ぐに影響を受けてしまいます。過去には、毎年と言って良いほど大小は有りながら起こっていますが、その度に力強く復活しています。また、多くの人の環境への努力の結果が、海をきれいにして来ていると感じています。

(WWF基準：世界最大の自然保護 NGO (非政府組織) が作成したレッドリスト)



クレハガイ、セキモリガイ、ハリマセキモリガイ



ユキミノガイ

●記事提供 青野 良平（環境記者NO.070103）

※30年にわたって、京浜運河の貝を調査してきた 青野良平さんのHPはこちら
（リンク→<http://members12.tsukaeru.net/aono/>）

「運河内での貝の出現種類定着の記録」「貝から見た運河の環境」など、盛りだくさんの内容です。

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月10日

金木犀の香る路地にて

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月26日

環境記者レポート

金木犀の香る路地にて

日時：10月11日

場所：旗の台～荏原中延

数日前から、品川中どこへいっても金木犀の香りが漂い始めました。旗の台の自宅周辺を一回りし、歩くうちに荏原中延まで足を伸ばすことになりました。



香りの元、金木犀に辿り着きました。今年のように一斉に香りが漂うのは珍しい気がします。中国原産のキンモクセイ科の常緑樹で、大気汚染を嫌うと聞いています。一斉に花を咲かせて香りが漂ったのは、彼岸を過ぎた頃から小雨の日が多く、都会の空気が洗われたせいかもしれません。



未だ気温は20℃近くあるというのに、紅葉が始まっているところが見られました。雨もよく降りますが、風が強いことが多いので、樹木にとっても体感温度は低いかもしれません。



荏原中延駅近くの民家の垣根には、金木犀と銀木犀が入り混じって植えられています。銀木犀は金木犀ほど香りは強くありません。あまり見かけない珍しい花ですね。

●内田雅弘(記者NO. 060104)

カテゴリ：平成19年度

投稿日 : 2007年10月26日

花海道のコスモス

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月26日

環境記者レポート

花海道のコスモス

日時：10月12日

場所：勝島運河しながわ花海道

今年の花海道のコスモスは、猛暑で痛んで、例年より少ない花数です。まだ蕾のところもあり、“コスモスの絨毯”というわけにはいかないようです。土手の上を立会川方面から鮫洲橋まで歩いてみました。



白いピンクの縁取りのものが多く咲いています。



モンシロチョウ、ツマグロヒョウモンなどが、コスモスに蜜を求めています。



水辺から見上げながら散策。青空の下のコスモスは輝いて見えます。土手から見下ろすよりも、より美しく見えます。蝶や蜂たちにとっても見つけやすいようです。

●内田雅弘(記者NO. 060104)

カテゴリ: 平成19年度

投稿日: 2007年10月26日

コスモス狩りと菜の花の種蒔き

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月30日

猛暑の夏からやっと気温が下がり、コスモスも生き活きとしてきましたが、来期の菜の花の種蒔きの季節も近づき、一寸早い感じですが、しながわ花海道ではコスモス狩りと菜の花の種蒔きが行われました。

異常に伸びた背丈、次々と増えた雑草、皆で刈り取りました。見頃を迎えていた花々は、切り取って持ち帰りました。また、綺麗に咲いている一部の場所は周りの雑草を取り除くだけにしてあります。所々に未だ可憐なコスモスは残っています。



刈り取ったところは、耕し、種を蒔き、雨水タンクの水で水撒きです。



ボートの浮かぶしながわ花海道は和やかな景色です。なお、今年の温暖化は水鳥たちにも影響していて、本来多くのユリカモメで賑う運河ですが、姿を見せませんでした。



ボート遊びも終わった頃、記念式典が行われました。鯨洲、立会川の有志により勝島運河に花一杯運動を始め、地元が一体となって勝島運河を花の運河とし、向日葵の咲く中で「花の運河」が「しながわ花海道」と名付けられて5周年になります。

品川区濱野区長は今回からこの花一杯運動に参加、地元の子もたちから菜の花の種を受け取り、子どもたちと一緒に種蒔を行いました。勝島運河の土手に、花文字で火災予防等呼びかけている地元大井消防署の方も行いました。



続いて、自分たちの持ち場だけでなく、しながわ花海道全般の草取りや、水撒き等、普段からしながわ花海道の面倒を見ている人たちに感謝状と記念品が贈られました。プロジェクト代表挨拶、濱野区長挨拶、他来賓の方々の挨拶があり、祝杯を上げ、皆で懇親会、5周年を祝いました。



- 撮影日 平成19年10月21日
- 内田雅弘 (記者NO. 060104)

カテゴリ: 平成19年度

投稿日: 2007年10月30日

第二延山小学校4年生「環境レスキュー隊」出動！

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月31日

2xxx年、環境を破壊し尽くされた地球は、人が住めない星へと変わっていた。この状況を心配した異星人は、過去の地球へ使者を送ることを決めた。彼らの名前は「環境レスキュー隊！」・・・

第二延山小学校の4年生は、「もったいない」を合言葉に、環境を守る活動を広げようとして取り組んでいます。

10月18日木曜日の集会で、全学年に向け、「環境レスキュー隊、出動！！」という劇を発表しました。



第二延山小学校に、レスキュー隊が現われます。

児童 「私たちにできることを教えてください」

隊員 「では、まず環境ISOを進めていきましょう」

隊員 「合言葉は、もったいないです」

全児童 「もったいない！」



そして、3つの取り組みを約束します。

◆ 電気の節約～こまめに電気を消そう。待機電力もあるから、必要以外はコンセントを抜くこと。

◆ 水の節約～出しっぱなしはやめよう。

◆ 給食を残さず食べよう～食べれば栄養、残せばゴミ。食べ物はもともとは命。私たちは命をいただいて生きているのだから、食べ物を大事にしよう。



来年の2月の学習発表会で、続きが発表されます。子供たちは引き続き、環境活動への取り組みの大切さを訴えていきます。

- 撮影 平成19年10月18日
- 環境記者 勝山宏則（記者NO.060204）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月31日

黄色の絨毯を夢見て

こんな秋見つけました ～西中延児童センター駐輪場～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月15日

それは西中三丁目の小さな街角のことです。西中延児童センター（西中延保育園）のお話。お母さん方は朝早く起きて、お子さんの児童センターへの送迎を毎日行っております。自転車での送迎です。そんなお母さん方が利用しているのが、駐輪場です。忙しい中でも、この駐輪場で目と心を癒してくれるものがあります。

一つは、ほんの足を広げたような場所で、児童センターの職員が黄色いコスモスを育てられ、その花に誘われて「蝶の道プロジェクト」にも登録されている2～3種類の蝶が舞っています。また、この狭い場所に自然に生えたブドウの葉が黄色く紅葉しています。



それから50cm四方ぐらいのところには柿木が成育していますが、今年は実が鈴なりになっていました。10月の十三夜の頃から児童センターの子どもさん達に少しずつ味見をしてもらい、早く甘くなるのを待ち遠しくしておりましたが、やっとこの11月初めに赤く熟し、皆さんで賞味することが出来たそうです。



- 平成19年11月7日
 - 中西義治（記者NO. 060108）
-

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月15日

続報：「線路脇の花壇」

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月15日

以前、池上線の線路脇の、ほんの5坪程度の空き地を利用した花壇をご紹介いたしましたが[2007年1月15日]、いまだ皆さん元気に頑張っておられます。菅本さん以下、77歳以上の方々です。

通りがかりの方々や近くの延山小学校の児童がこの花壇の前を行き来するため、児童の登下校時にも菅本さんたちの目が行き届き、地域の安全確保の一助になっているように思われます。

「来春はすばらしい花が咲くよ、楽しみにしててください。」との伝言がありました。



●平成19年11月7日

●中西義治（記者NO. 060108）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月15日

紅葉便り

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月23日

猛暑で遅れている秋の訪れ、時折の冷え込みでいつしか部分的な紅葉は始まっていて、ハナミズキは、ほとんどが落葉状態、桜も日当たりの好いところでは緑の中に見事な紅葉、次々と落葉しています。桜の名所である目黒川沿いの紅葉を訪れてみました。



目黒川沿いは、五反田、大崎付近はビルが次々と建設され日陰が多くなり、日当たりの好いところを除いて、まだ緑がほとんどです。



居木橋から山手線(新幹線)を挟んで東海道線までは、銀杏が他所より早く色付いています。



荏原神社付近は、銀杏の紅葉も始まっています。



目黒川の最後は、運河の一部にもなっている東品川海上公園です。

アイル橋付近にある2本のナンキンハゼは、緑、黄色、紅と混じりながら紅葉し、実の殻が弾けて白い種が見えます。最近はまだ使われていないようですが、ロウソクの原料です。一般に紅葉は全体が黄色みを帯び、紅く変わっていくものですが、ナンキンハゼは同時進行です。

時折日当たりが遮られる時間があり、一部緑も混じりますが、桜だけでなく色とりどりの紅葉が楽しめます。

期日：平成19年11月19日

場所：目黒川沿い

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月23日

立会川護岸でお花いっぱい運動

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月24日

立会川護岸では、お花いっぱい運動として近隣の人たちが自分たちで用意したトレーを護岸金柵に縛り付けたりして、花々を育ててきました。もともと、花トレーを取り付けられるように護岸工事が出来てないので、トレーの取り付けには苦勞があったようです。そこで、護岸を整備し、トレーも固定する工事が進められました。



整備された護岸は溶岩のような仕上がりで「溶岩パネル」、トレーはサイズが25cm×90cm位で、同じく溶岩のような仕上がりで「溶岩ポット」と名付けられ今年の初め、立会川駅近くから工事が進められました。昭和橋から月見橋の間が最後の工事になりました。



完成式典では、立会川周辺うるおいプロジェクトに参加している町会長代表挨拶のほか、品川区より道路公園課の藤田課長の挨拶があり、他にも町会、団体等の自己紹介がありました。



式典の後、花植えに参加した人たちは受付を済ませ、思い思いに花を選んで、自分たちの持ち場へ向かいました。



子ども連れで、一人で、色々な方たちが運動に参加します。日頃の手入れが出来るよう、自宅近くが割り当てられています。花苗を花鉢から溶岩ポットに移して、水を撒き終了です。護岸が花いっぱいになっている頃、立会川では小柄なボラたちが群れをなして泳いでいました。

期日：平成19年11月18日

場所：立会川護岸

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月24日

池田山公園の雪吊

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月21日

池田山公園では冬恒例の雪吊が行われました。雪吊は松の木の枝が積雪で折れるのを防ぐ為のものですが、最近は庭園の飾りとして行われる事が多いとのこと。暑い夏の後、なかなか秋らしさ、冬らしさが訪れず不用のような気もしますが、異常気象だからこそ何時大雪になるかも判らないのが現実です。



作業は始まっていて、最後の仕上げ中でした。柱を松の木沿って建て、松の木を縛り固定します。



なお、柱の頂上には数十本の細縄を縛り付けます。最も大変な作業は、この細縄を柱の頂上に縛り付ける事と聞いています。木の大きさによって本数、長さを調節します。小さい木で4～50本、大きい木は100本近くあるようです。



出来上がった雪吊は、紅葉が残る池田山公園の飾りになりました。職人技が仕上げる日本の伝統芸術、冬の池田山公園の風物詩です。

期日：平成19年12月15日

場所：池田山公園

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月21日

京浜運河緑道公園の夕暮れ

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

大雪の頃は、日没が最も早い頃、東京では、4時28分で予定が出されています。別の見方では、日没の位置が、最も南寄りです。

京浜運河緑道公園では、八潮橋から、鮫洲運転免許試験所の対岸付近での日没で、勝島倉庫群のビルとビルの日没する時期で、ビルに日没していた頃よりむしろ、遅い日没なのかもしれません。なお、ビルの間には、高速道路が走っています。



八潮橋袂には東屋風の休憩所があり、4時頃には、水面に輝く夕陽が見られます。ビルに反射した夕陽も、水面に輝きます。

運河沿いや、緑道では、遅れた紅葉が、より色づいて見えます。



日没付近のビルの形状により、ビル壁に隠れるのではなく、ビルの中に日没していく太陽が見えます。この地独特のものです。

夕暮れ時は、犬の散歩やジョギングの人たちが行き交い、釣りを楽しむ人たちも居ます。

予定より早い、4時20分頃、日没し、次第に赤味が増していくはずでした。ところが、年々、赤味が薄くなっていきます。富士山が見えた場所でも、雲ではないのに、透き通って見えません。

冬場は気温が下がり、空気が澄み易く、夕焼けより赤みが強くなる時期、でも、大気汚染、温暖化の影響が年々強くなって、紅い夕焼けも見られなくなってきていることを実感するようになりました。また、ビルの中に沈む夕陽は、水平線より高い位置、その為、いつも眩しいばかりに輝いていましたが、その強さも、弱くなっています。



5時を過ぎ、紅い夕陽というより、ビルの証明に照らされた運河の景色になりました。

た。



八潮橋では、橙色の証明が眩しさを増していきます。



八潮橋の螺旋階段からは、京浜運河緑緑の東に立つ八潮団地の明りと、高速道路の車、モノレールの明りが流れ見えます。

期日：平成19年12月6日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

戸越公園のヒマラヤ桜

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

戸越公園、薬居門前のヒマラヤ桜、開花は11月20日頃、しかし、その後の開花は緩やかで、やっと、少しの蕾を残して、ほぼ満開状態になりましたが、見た目は3～5分咲きです。



今春の桜と同様、殆どの枝で、花が咲いているのは小枝の先端だけで、花数が極めて少ない状態です。訪れた近隣の人たちも、チョッピリ寂しそうでした。皆、温暖化?と感じているようでした。

薬居門前のヒマラヤ桜は、近隣の方の寄贈によるものと聞いています。ネパール地方原産の友好の桜、冬の寒さと夏の高温に弱く、最低気温零下2～3度、最高気温33度位と言われています。近年の35度以上の猛暑で、木が傷んでいるのかもしれない。温暖化の影響をまともに受けているようです。本来、10月下旬紅葉が始まった頃、落葉し、蕾をつけ、11月下旬に満開になる花です。



花が咲けば、蜂、目白が蜜を求めて飛んできます。雀やヒヨドリも、立ち寄って来ました。

ヒマラヤ桜の蜜は、かなり多く、花から流れ落ちているのが見られました。数年前、道路沿いにも若木が植えられました。早くも新芽が次々付いています。その中に、蕾が幾つか見られました。開花してくれるのが待ち遠しく思えます。



冬を彩るヒマラヤ桜、今年は猛暑にも耐えた数少ない花たちを、見守ってあげたいと思います。普通の桜より長持ちします。

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

池田山公園の雪囲い

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

池田山公園では、冬恒例の雪吊の後、蘇鉄の雪囲いが行われました。蘇鉄は、南国の木、冬の寒さ、雪から保護するものです。葉を下から、幹に縛り上げ、下から、こも（むしろ）かけを行います。まず、細縄で仮止めです。



下から、幾重にも縛り付けていき、最後はこもの帽子を被せて出来上がりです。雪吊同様、冬の風物詩、出来栄えが勝負と、二人で健闘しながらの作業、1本の木で1時間半ほどかかりました。



期日：平成19年12月12日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

潮風公園の夕暮れ

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

大雪の頃は、日没が最も早い頃、東京では、4時28分で予定が出されています。別の見方では、日没の位置が最も南寄りです。



大雪の頃は、潮風公園噴水広場の正面、大井火力発電所付近に、日没し、富士山、噴水、発電所の煙突、水鳥、散歩の人等、夕暮れの景色を満たす材料が揃っています。

噴水広場は、南国を思わせる木々が多い所です。

遅れた紅葉も、夕陽に輝いています。

噴水の向こう、見晴台では、カメラを手にした人たちが、夕暮れを楽しんでいます。海面に反射する夕陽で、輝いて見えます。

噴水や、水路の水も、夕陽で輝いています。

この時期にしか見られない、発電所煙突に夕陽が架かる現象です。煙突からは煙は見えませんが、熱気、蒸気が出ているようです。丸い太陽に、煙突から噴出すものが見られます。

偶然、見晴台に立つ人影、煙突と並び、夕陽も、人の影に入りました。夕陽を見つめる人と煙突です。

南国を思わせる木々の中に、発電所の上に、日は沈んでいきます。



水鳥が一羽、反射する夕陽を浴びて泳いでいます。

対岸のビルの窓ガラスには眩しく反射する夕陽が輝いています。

4時20分頃、発電所の上に、陽は沈んで行きました。それを見つめる人も、夕陽に赤く輝いて見えました。

日没後は、昨日の京浜運河緑道公園のように、なかなか、赤味が増しません。

水鳥たちも泳ぎを止め、羽を休めて、波に揺られています。

水辺には、散歩の人だけでなく、釣りの人も加わりました。



雲はないのに、深いかすみに包まれて、富士山は見る事が出来ませんでした。
大気汚染、温暖化の影響は、素敵な景色も奪っていくようです。



噴水には、赤、黄、青等の照明が付けられ、夕陽を彩りました。
広場正面はほんのりと赤みに染まり、散歩道は、木々の合間が照明で緑色に染まっています。

期日：平成19年12月7日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

品川の花便り ねむの木の庭

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日



ねむの木の緑の葉もやっとなり、少しは冬らしさを増したねむの木の庭、セイヨウヒイラギの赤い実が目立つ中、黄色の花が咲き始めたように見えます。チャリテイのようです。



入口付近のユリオブスデージー、黄色の花が満開になるのが楽しみです。



道路沿いのジャノメエリカも少し花数が増えた程度です。ジャノメエリカは11～4月のツツジ科の花、花の少ない時期、満開になると淡いピンクの塊、待ち遠しく思います。

期日：平成19年12月12日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月23日

新春の花便り

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月10日

品川区民公園

梅林にあるロウバイは、冬至の頃開花しましたが1月2日は5分咲き程度でした。寒さが厳しければより開花するはずですが、遅れ気味の様です。



1月8日には、満開ではありませんがほどほどに見頃で、落花している花びらも確認されました。遅れているのは木の上です。小柄な木は、未だ葉が残っています。その近くには蕾が多くあります。



梅林はこの正月から木の合間に遊歩道、観察路が作られています。ロウバイもまた、これから開花する梅も近くで見ることが出来ます。



その広場で、茶色と白の混じった鳩を見つけました。灰色の鳩が多い中、珍しいので撮影しました。



水族館近くの水辺のレストランの屋根には、ユリカモメが数多く日向ぼっこをしていました。

期日：平成20年1月9日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月10日

小寒の日の日の出

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月10日

小寒の日の頃は、日の出時刻が最も遅い頃。日の出位置も最も南に寄っている頃です。5日前後はほとんど同じ時刻の日の出になり、元旦もほとんど同じ時刻です。



定刻6時51分に、倉庫と倉庫の間の水平線に赤みを帯びた筋ができ、風船が膨らむような感じで大きくなっていきました。



風船は次第に赤くなり、膨らんでいき、上部の方が輝き始めました。コンテナ基地の設備に地平線を飛び出した太陽が架かりました。ファインダーの中は眩しいばかりでしたが、出来上がった写真は不思議なデザインの太陽になりました。日の出から4～5分ほどの出来事です。

その後は青空に眩しく輝きながら上昇していきました。

期日：平成19年1月7日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月10日

戸越公園(二十日正月)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月23日

20日正月を迎えた戸越公園、元気がいいのは池を泳ぎまわる水鳥たちです。池の辺の広場では散策の人たちが見られます。



東屋の横を過ぎ薬医学門に向かう遊歩道にはスイセンが溢れるほどに咲いていました。



寒椿も見頃を迎えています。



薬医門の内側には蘇鉄の雪囲いがありますが、「わらぼっち」と紹介されていました。蘇鉄等寒さに弱い植物を寒さから保護するために藁で包んだものをいうようで、一般的に藁囲い、雪囲いと言われるものと同じ様です。



薬医門を出るとヒマラヤ桜は殆ど花が散り、緑の葉が覆い始めていました。他の落葉樹より一足早い新緑の出現です。

期日：平成20年1月22日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ : 平成19年度

投稿日 : 2008年01月23日

大井図書館近くの池で見かけたカワセミ

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月27日

大井図書館近くの小さな池でカワセミを見かけ、撮影しました。

清流の鳥・カワセミは、ひところ都会の環境悪化に伴い郊外でないと見られなくなりましたが、目黒駅近くの自然教育園で子育てするなど次第に東京都心へ戻り、品川区内でもあちこちで観察されるようになりました。

この日は池の上に伸びた枝からダイビングして小魚を捕らえており、その瞬間を撮影しようとねばっていたら、こちらに気付き、逃げて行きました。



カワセミは漢字で翡翠と書き、宝石のヒスイと同じ。背中が鮮やかなヒスイ色です。ビルが雑然と建つ中でたくましく生きる宝石のように思えました。

写真は大井図書館近くの池で見かけたカワセミ（2008年1月22日撮影）

環境記者 杉山邦夫（記者◆070101）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月27日

池田山公園(大寒の頃)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月29日



すっかり落葉した庭園は見通しもよく、濃い緑で、いつも暗かった東側斜面は、木漏れ日で山の中のようです。



シダ類は未だ茶色のままです。



アセビに蕾が付きました。花は2月末から3月です。



遊歩道で小鳥が散歩していました。人気を感じると近くの緑地へ移動、こちらの様子を伺っていました。ヒヨドリは高い木の上に避難するので違います。黒い胸と白い顔の目元に黒い線が走っており、その特徴から「ハクセキレイ」。北日本で繁殖し、本州中南部以南で越冬するそうです。最近、関東以北では雪が多く、南下してきたそうです。水辺に住み、昆虫を食べるそうですが、この時期に見つかったのが疑問です。

期日：平成20年1月25日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ : 平成19年度

投稿日 : 2008年01月29日

品川の花便り～平塚から旗の台を歩く～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月30日

ねむの木の庭、池田山公園の帰り道、戸越銀座を降りて平塚から旗の台を歩いてみました。



東中延では、大きなユリオブスデージーに出会いました。ねむの木の庭のものは、花は横にひろがっていますが、こちらは塊になっています。



東中ハナミズキ公園では、山茶花のピンクが見事でした。同じ様に今、どこの公園でも山茶花がひっそりと咲いています。



荏原中延付近では、鉢植えの花々が狭い路地をかざっています。



西中延では、いつもの所にシナマンサクが開花していました。大寒の頃ではちょっと早いようです。何と

いっても、春の花の中で最も早く咲くことから先ず咲く、マンサクと名付けられていて、春の到来を告げる花です。シナマンサクは、マンサクの中でも葉が落葉せずに残ったままで開花します。縮れた黄色の春のこよりです。



すぐ近くの生垣ではスイセンが満開になっていました。



旗の台3丁目の立会川遊歩道では、ナンキンハゼの白い種が数多く残っていました。あちこちの公園のものを集めてロウソクを作るのも良いと思いますが、大変な作業と聞いています。

期日：平成20年1月24日

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月30日

節分の雪景色

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月10日

節分は季節の節目、春夏秋冬最後の日の4回ありましたが、今は大寒の15日後、立春の前日だけを呼ぶようになっていました。その冬の最後の日、東京は明け方から2年ぶりの雪。ただかなり湿っていて、今にも溶けそうな雪です。急ぎ品川の各地を廻ってみました。

旗岡八幡神社



神社や商店街で記念品に換えてくれる札入りの豆が配られるとあって、雪の中長い列ができていました。

法蓮寺



本殿脇で紅梅が雪を被っていました。

戸越公園



池では、水鳥（鴨）が雪の寒さの中、元気よく泳いでいました。池の周りには暖かいのか、緑の木々は、湿った雪を次々と溶かし落としていたようでした

ねむの木の庭



道路沿いのユリオプスデージーは積雪がありませんでしたが、ジャノメエリカは、雪を被っていました。

池田山公園



雪吊に保護された松、雪を蓄えていました。松の葉は細いので、昼間の熱を保護し難い？とにかく、松の積雪は、ツツジ等と同様に他の木よりも多いようです。雪吊は少ない積雪でも絵になります。



ロウバイが残っていました。冬の最後の黄色い輝きです。旗の台でもロウバイを見かけましたが、雪景色になって、より輝いているように見えました。寒さの遅れが冬の遅れ、いえ、なかなか冬本来の寒さにならないというのが現実のようです。ロウバイは、本来大寒の頃が似合っています。ロウバイが散って、梅が咲き誇ります。一部で開花した梅も、足踏み状態です。

平成20年2月3日

撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月10日

梅を求めての散策その1

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月13日

大寒の頃、節分と思い出したように雪が降り、急に冷え込み、寒い冬が続いていると勘違いしそうですが、例年の12月末の気候が一月遅れでやってきたのと同じです。そんな立春の頃の梅を求めて区内を散策しましたが、遅れた冬の到来と、春を感じさせる時折の暖かい陽射しに、花たち、鳥たちの季節感を狂わせている光景に出会いました。

小山～荏原町



小山八幡神社の拝殿の裏には数本の白梅があります。昨年よりは遅い開花です。



三谷八幡神社は梅や桜の美しい神社です。入口横では紅白の梅が見頃になっていました。



立会道路では白梅が開花しています。

西大井～東大井



西大井の大仏で有名な養玉院・如来寺、明王道の脇では小柄な紅梅・白梅が、如来寺の脇では背の高い紅梅が咲いています。



旧東海道に抜けるところにある鮫洲八幡神社、舞台の横に見事な白梅がありました。カメラを向けると、数羽の目白が飛び立っていました。静かに、隠れるように蜜を求めていたようです。しばらく場所を離れていましたが気配を感じているのか、戻ってきませんでした。

来福寺

東大井の庭園はしながわ百景に選ばれている来福寺、季節の花々に手入れがしてあります。



本殿前では小柄な白梅が見頃を迎えていました。



その下では昨年同様、福寿草が開花していました。立春の頃に咲くキンポウゲ科の春の到来を告げる花です。黄色に輝く様は、活き活きとした春を感じさせます。公園では見られない花です。



広場ではスイセンが咲き誇っていました。

平成20年2月7～8日
撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成19年度
投稿日：2008年02月13日

品川区豊町に「ワカケホンセイインコ」2羽を発見！！

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月13日

本年1月20日（日）の昼下がり、柿の実を食べているワカケホンセイインコと思われる2羽を見かけました。体長は尾羽が長いために、かなり大きめ。35cmから40cm位あるように思われました。場所は、品川区豊町一丁目です。



とっさにカメラを取りに自宅に帰り、戻ってきてシャッターを押しました。写真に見るとおり、日本ではペットとして飼われていることはあっても、野生では見ることのない鳥です。スズメ、ムクドリと一緒に柿を食べている姿に驚かされました。自動車が通過するのに合わせて、飛びたちましたが、すぐに戻ってきました。実は、昨年12月にも、同一場所に同種のインコが1羽、柿を食べているところを見ました。きっと、ペットが逃げ出したものか、それらが繁殖したものでしょう。

冬にはエサが乏しくなりますので柿の実は貴重な食料に違いありません。加えて、この寒さに耐える南方系のインコのしたたかさには、恐れ入ります。近くに戸越公園、国文学研究資料館さらには、林試の森公園等の緑豊かな地域がありますので、そこらの高木をねぐらにしているのでしょうか。

1週間後にその場所に行ってみましたが、柿はほぼ食べ尽くされ、ほとんどありませんでした。メジロが1羽、わずかな食べ残しを突っついていました。



期日：平成20年1月20日

●布川憲満(記者NO. 060107)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月13日

梅を求めての散策その2

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月14日

しながわ区民公園

この季節は梅です。梅林は管理事務所脇にあり、開花状況は今年から噴水広場前に提示してあります。種類が多く、咲く時期も色々で、梅林全体が満開になることは無く、梅の時期はどこかで満開の梅に出会えるようになっています。

今回開花を確認したのは次の通りです。



玉光枝垂



唐梅



緋梅



玉牡丹



冬至



東雲



八重寒紅



白加賀



鹿児島紅



淡路



満月枝垂

の11種類です。1月に開花していた東雲は満開状態ですが、他は今からといったところ。昨年の同時期の半数ほどです。

品川（東西南北）



しながわ中央公園では、道路沿いに紅梅が並べられ、ミニの梅林になっています。



品川神社、国道沿いの鳥居の上に白梅が咲き始め、境内では、御岳神社の周囲に、紅梅、白梅が咲き始めていました。

荏原神社



暖かい日が少なく、開花は遅れています。2本のうち、恵比寿様の脇のものは未だ、多くの蕾が残っています。



もう1本の大きいほうは、かなり開花し、目白が幾羽も来て露を飲んでいました。寒緋桜の花は下を向いています。下から見上げるように無理な姿勢です。そのため一瞬の出来事です。目立った音を立てない限り、夢中になって蜜を飲み続けています。鮫洲八幡神社に居た神経質な目白とは違うようです。

平成20年2月7～8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月14日

「忘れられた駅と子育て地蔵」

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月27日

平成20年2月22日（天気晴れ）

「忘れられた駅と子育て地蔵」



「忘れられた駅と子育て地蔵」は、池上線、旗の台駅と荏原中延駅の間（旗の台駅寄り）にあります。

池上線が最初に開通したのは大正11年蒲田～池上間だそうです。

その後、五反田～桐ヶ谷～雪谷～池上と順次開通し昭和2年2月に全線が開通したそうです。

この駅が無くなったのは、池上線「旗が岡」駅と大井町線の「東洗足」駅の合併が昭和26年3月に行われ、現在の『旗の台』駅となった時です。

以降「旗が岡」駅・「東洗足」駅は廃駅となりました。

今回の忘れられたとした駅名は『旗が岡』です。

池上線の開通当事、地域住民が電車事故に巻き込まれないように（当時住民が電車に慣れていないことから人身事故が発生）、また周囲の安全を祈願して、当時の目蒲電鉄株式会社と地域の商店街住民の方々との間で「子育て地蔵」を祭るとした発想が実現して現在に至るまで引き継がれています。



台座には、目蒲電鉄を含め、当時「子育て地蔵」建立に協力された方々の氏名が刻まれています。

また、その入り口には、当時銀杏の木がご神木として植樹されました。

第二次大戦で周囲が丸焼けになった中で戦火を逃れて旧駅舎と現在も存続する銀杏の木2本が残されました。



樹木は、品川区保存樹「大銀杏の大木218号」として細々と生き続けています。時々通りすぎりの方が、お参りをしている姿が垣間見られます。この環境を現在守っている方がいます。苦労されていることは『子育て地蔵』の環境整備と銀杏の木の落ち葉の片付けだそうです。初冬の落葉の時など落ち葉収集に苦労しているそうです。



これらの環境整備を担っているのは、生をこの地で受けて以来今日まで近くに住む天野正雄様（79歳）1人だそうです。ボランティアの協力者が欲しいとつぶやいていました。『子育て地蔵』を清潔にすることは勿論のこと、常時生花を切らずに飾り付け、周囲の清掃に労を惜しまず実行されています。天野様は、『子育て地蔵』を大切に続けると周囲に起こる火災や自殺等の事故が無くなってきたとも話されていました。このような残された財産が隠れたところに存在しています。春の兆しが見え隠れする2月末に天野様を尋ねてみました。
●中西義治(記者NO.060108)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月27日

しながわ花海道で菜の花が開花しました

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月29日

今年の菜の花の咲き具合は五分咲きといった感じです。



しながわ花海道の北端、鯨洲橋袂からは富士山が見えます。この日はよく澄み切って晴れていたの、期待して出かけました。お昼近くでしたが見ることができました。菜の花畑の上に富士山がほんのり見えました。



今年の菜の花は咲き始めが1月末、しかしその後大寒、節分の頃から急に12月末の気象が続き気温が上がりませんでした。春が足踏み状態で、菜の花の開花もスローペースです。背丈が伸びなくても花は付き始めていました。暖かくなれば一気に咲きそうです。



幾つかの畑でホトケノザが開花していました。



3月23日には、この運河でボート遊びが予定されているそうです。菜の花のお花見になりそうです。しながわ花海道はしながわ百景で「立会川河口堤防船だまり」として紹介されていて、地図の上では勝島運河と記されています。平成13年秋から花いっぱい運動が始まり、翌年「しながわ花海道」と名付けられました。向日葵、コ

スモス、菜の花を中心に地元の人たちによって育てられています。なお、ここ数年異常気象で花期が巧くいかない事があり、向日葵はお休み中です。

平成20年2月27日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月29日

富士山と夕陽(鮫洲橋・アイル橋)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月02日

鮫洲橋

品川区では富士山を観測できる場所が限られていて、昔は海だった所ばかりです。埋立地は海から高く作られているという特徴によるものです。埋立地勝島と結ばれた鮫洲橋もその一つです。



雲も無くよく晴れ渡っています。あまりに眩しく、太陽が富士山に近づくにつれ、富士山の山陰が薄くなり見えなくなっていました。



レンズを通して、太陽が富士山の山頂に架かったことが判りましたが富士山の稜線が全く見えません。稜線が見えれば、所謂ダイヤモンド富士です。しかし現実は一寸凹凸した板の上にマシュマロが乗っかっている感じです。右に移動しながら沈んでいきます。



その後は静かな富士山の夕景色です。散歩の人、仕事帰りの人等、皆足を止め、その景色に見入っていました。

アイル橋

東品川海上公園をつなぐアイル橋は目黒川の延長線上にあり、京浜急行が高架線になるまでは品川橋からも見られたと言われていました。ところで、現在目黒川の地下に高速道路が計画されていて、その排気口がこの富士山の見える場所に予定されている事を、先日南品川の現場で知りました。富士山は左右の稜線が見えて初めてその姿を確認できるものですが、右の稜線を排気口が隠してしまうそんな計画だと分かりました。



この日(2月14日)は空もよく晴れて、風も冷たく、陽が沈むにつれてその眩しさが増していきました。午後5時10分頃に富士山左斜面に差し掛かりましたが、眩しくて、太陽以外は真っ暗で何も見えない状態でした。



雲の出も少なく、赤みを帯びた空にすり鉢の姿がくっきりとしています。



5時半頃から公園等の照明が付き、また変わった風景になりました。高速道路の排気口が南品川に出来たら見る事が出来ない富士山の姿です。

平成20年2月14日(アイル橋)、18日(鮫洲橋)

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月02日

第二延山小学校4年生「僕たち環境レスキュー隊FOREVER」！！

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月05日

僕たち環境レスキュー隊FOREVER

記者レポート2007年27号の続報です！

第二延山小学校の4年生は一年間、学校ISOに取り組んできました。環境を守るために私たちが何をすべきなのかを問いかけます。2月16日（土）・17日（日）の学習発表会において、教室での環境展示や、劇「僕たち環境レスキュー隊FOREVER」で、全校生徒と保護者の皆様に学んでいただきました。



隊員： 「もし、このまま地球温暖化が進めば、もっと寒い国にもこんな恐ろしい病気がはやってしまう・・・」



彼らは、わが国をはじめ、アメリカ、ロシア、中国の首脳に、地球温暖化防止のために具体的に対策を講じるよう要求しました。その結果、各国の首脳は、そのための行動を起こすことを約束しました。

地球を救うのは私たちです。未来の子どもたちのために、地球上に生きる全ての生きもののために緑の星を守りましょう。未来の環境レスキュー隊は皆さんです。



隊員： 「合言葉は？」

全隊員： 「もったいない！」

全児童： 「もったいない！」

昨年の全校集会では身の回りのできる環境保護を発表しました。今回は地球規模での問題について考え、未来の世界のためにできることを提案しました。

●撮影 平成20年2月16日,17日

●環境記者 勝山宏則（記者NO.060204）

カテゴリ : 平成19年度

投稿日 : 2008年03月05日

品川の花便り(啓蟄の頃)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月12日

旗の台～平塚

立春の頃から、中途半端な春の日が続いています。啓蟄と言えば、春の陽気に虫たちが出てくる頃ですが、1月末からハクセキレイ、ムクドリ等を好む鳥たちが飛び回り、蝶も観察されたり、現実の啓蟄は既に過ぎているようです。



旗の台5丁目では、2週間前に開花した紅白の梅が見頃を迎えました。昨年までは別の路地に紅梅を接木したような大きな古木があり、青空の下、大きく分けた紅白と入れ混じった紅白、一つの花びらが紅白になっているもの等楽しむことが出来ましたが、残念ながら姿を消し、今はこの小さな木だけです。生垣でかくれるように咲いています。



坂を下ると旗の台4丁目にある小学校、街角に面したサクラランボが開花しました。気温が上がれば満開になると思いますが、昨年同様蕾の数が少ないようです。例年3月10日過ぎ頃から見頃を迎えています。



更に別の路地では目白のつがいが蜜を求めていました。



仲通りから延山くすのき公園を抜けると正面はボランティア花壇、黄色のウンナンオウバイが満開でした。



東急池上線沿いの路地を進むと平塚1丁目、2週間前の沈丁花が強い香りを漂わせてほぼ満開状態、他所よりかなり早い状態です。

池田山公園



松の雪吊や蘇鉄の雪囲いも外され、花の春を待っている感じでした。



広場の奥の方で藪ツバキがひっそりと咲いていました。



池の周りの白いアセビが開花し始めていました。

五反田



ねむの木の前、東五反田5丁目は大使館や大きな個人住宅の多い所で庭木も色々あります。庭園前のミモザは今年も鮮やかな黄色に輝いていました。



直傍では色々な椿が色艶もよく咲いていました。

池田山公園の東側はNTT関東病院、その生垣はツツジ等の木々もありますが野草の宝庫？色々ありました。



カラスノエンドウ



ホトケノザ



オオイヌノフグリ

小山



禿坂通りも小山台への延長が進んでいて、林試の森公園入口付近も整備されていました。水車のある入口前の道路、中央ライン上に花壇があります。日当たりの良い所です。雪ヤナギが白い花を付けていました。



紅梅の奥には菊のような葉の上に、見たことのある花が咲き始めていました。花びらの根本、花の中央の緑色、福寿草です。園芸品種があるとのことでした。



アセビも咲き始めていました。

大井



立会道路大井町付近では緑の大きな葉に囲まれて、小さな花が密集した花が咲いています。中央部のは満開状態、他に咲き始めのものもあります。葉の形状、花の咲き具合からフキノトウのようです。



隣の花壇では菜の花が見頃になっていました。



荏原町の立会道路では珍しい梅も、ここではあちこちに咲いています。赤の濃い紅梅、枝垂れの白梅等々です。



ヒヤシンスも開花していました。

しながわ区民公園



野球場近く、自転車道の外の斜面に大きなマンサクが開花していました。遊歩道から離れ、背が高く、他の木に紛れて見難い所にあります。



噴水広場ではサンシュユも開花していました。まだ満開ではありません。梅林の土手の端から広場を見下ろしています。

平成20年3月7日、8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月12日

品川花便り（続・啓蟄の頃）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月20日

旗の台小学校

旗の台4丁目にある旗台小学校のサクランボが見頃を迎えていました。

4月12日頃、蜂が多数みられたのは夕方の帰り道、撮影日を探しているうちに、14日は夕方から雨が予測され強く降るとのことも報道され、落下しないうちにと、どんよりとした曇り空の下撮影に挑みました。



準備をしていると偶然、目白が来ました。早速、目白の観察です。ところが、直ぐにヒヨドリが来て目白が退却。ヒヨドリは悠々とサクランボの露を味わっていました。14日は、青空の下のサクランボが撮れませんでした。目白とヒヨドリで楽しむ事ができました。15日は快晴の天気予報、雨に散らないことを祈り、後にしました。



15日、午後、幾らか散った後もありましたが、青空の下のサクランボに出会う事ができました。

青空の下、白く輝く様は、なんとも言えません。5月になると、赤い実が鈴生りに付きます。待ち遠しいですね。



ところで、花数は枝の先端に集まっています。この冬も氷点下の冬らしい冬が来なかった所為かもしれません。

旗の台・中延



旗の台3丁目の立会道路では、子ども達の遊び場の上に、白モクレンが満開でした。ややピンク色が付き、青空の下輝いていました。



西中延、中延と旗の台を結ぶ道では、今年もネコヤナギ、いえ、イヌコリヤナギが白い穂と、毛むくじらの花を付けていました。



延山くすのき公園では、濃いピンク色の寒緋桜が、満開で輝いていました。

戸越～しながわ中央公園



戸越八幡神社では、かなり遅くなりませんが、舞台横の紅梅がやっと咲きました。まだ今からです。参道奥、狛犬の近くの梅も、今から開花です。



西品川の路地を抜けると品川中央公園です。

グラウンドの周りでは、ヒュウガミズキが咲き始めていました。



白モクレンも見頃を迎えていました。なお、くすのきの下の黄色のスイセンも賑やかになっていました。
一気に春を迎えたしながわ中央公園でした。

平成20年3月18日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月20日

春分の頃

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年04月02日

ねむの木の庭



春分も過ぎ、旗の台ではスミレやコブシが咲いていて、気になり出かけて見ました。



道路沿いには、ジャノメエリカやユリオプスデージーの他、白いクレマチスが咲いています。次々と咲き、そのうちモッコウバラも期待されます。



濃いピンクのアケボノフロウも咲き始めました。庭園には、モンシロチョウも飛び交っていました。

五反田公園の桜



五反田からねむの木の庭に向かう際に通る公園で、しながわ百景で紹介されている桜の名所です。

広場では子ども達が遊びに夢中になっていましたが、大人たちは夜桜の宴会準備に夢中になっていました。



桜は坂道に咲いていて、石畳により人が根元の上を歩くことはありませんが、石の重さが伝わってくるような感じです。

平成20年3月28日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年04月02日